

今年は オモダカが多かった!
来年に向け、秋防除、冬季の耕うんを実施しましょう!

印旛農業事務所 改良普及課よりお知らせ

今年は春先に低温があった影響で、オモダカの発生時期が長引き、除草剤での防除がうまくいかなかった事例が多発しました。オモダカは地中に翌年の発生源、“塊茎(かいけい)”を形成し、さまざまな深さから発芽できる雑草です。このため、土中の浅いところと深いところから発生したオモダカでは、地表に発芽してくる時期にズレが生じ、除草剤のみでは防除しづらい雑草です。下記の対策で越冬する塊茎の量を減らせますので、翌年の除草剤散布と併せた総合的な対策を行いましょ!

①、②はどちらかを実施してください

① 稲刈り後の早期耕うん

稲刈り直後～9月中を目安にロータリー耕を行うことで、雑草の地上部を地中に埋め込み、茎や根を切断でき、塊茎の形成量を抑えることができます。

② 非選択性除草剤を用いた秋防除

稲刈り後に再生してきたオモダカに対し、ラウンドアップマックスロードなどの非選択性除草剤を散布しましょう。地上部を枯らすだけでなく、地下部の塊茎にも効果が期待できます。散布にあたっては、十分に落水させてから薬剤を散布し、効果を出すために10日間は耕うんしないように注意しましょう。また、気温が低くなると効果が落ちるので、10月上旬までを目安に実施しましょう。

③ 晩秋から冬にかけての耕うん

塊茎は低温や乾燥に弱いので、よく乾燥する田では冬の耕うんにより塊茎を地表に出し、寒気にさらすことで、塊茎量を減らす効果が有ります。



多発するオモダカ



オモダカ



早期耕うんで、
オモダカを
やっつけよう!

印旛農業事務所

TEL : 043-483-1128